

# 広い視野に立ち、基礎的・基本的な知識や技能を身に付けていく授業づくり

— 小学校社会科における地球儀の活用を通して —

小 出 昭 一<sup>1</sup>

小学校社会科では、広い視野から地域社会や我が国の国土に対する理解を一層深め、国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識・技能を身に付けることが求められている。本研究では、基礎的資料の一つとして重視されることになった地球儀の有用性に着目して、その活用を図るための年間カリキュラムを作成した。そして、地球儀の活用を効果的に取り入れた授業づくりについて追究した。

## はじめに

小学校社会科では、「知識基盤社会化」「グローバル化」(小学校学習指導要領解説総則編 2008)といわれる社会情勢の中で、「広い視野から地域社会や我が国の国土に対する理解を一層深め、日本人としての自覚をもって国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識・技能を身に付けること」(中央教育審議会 2008 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について(答申)」)が重視されている。この「広い視野」とは、国土を多面的・多角的にとらえて自分たちとのかかわりを考え、世界を概観して地域社会や国土を見ることである。社会的な見方や考え方を養い、身に付けた基礎的・基本的な知識や技能を活用し、社会に参画していく力を育てていくためには、「広い視野」に立つことが不可欠である。また、「特定の課題に関する調査(社会)調査結果」(国立教育政策研究所 2008)では、多様な資料の中から問題を発見・把握する力や課題の解決策を表現したり、その理由を説明したりすることが不十分という指摘があり、指導の改善の具体策として「地図帳の継続的な使用」「白地図作業など多様な学習活動の工夫」「歴史的事象と結びつけた、人物理解を深める指導の工夫」「資料を読み取り、関係付ける活動を通して、子どもの問題意識を醸成させる指導の工夫」などがあげられている。基礎的・基本的な知識や技能を身に付けていくためには、各種の基礎的資料を効果的に活用していくことが必要であるのとらえることができる。

このような背景を踏まえ、研究テーマを「広い視野に立ち、基礎的・基本的な知識や技能を身に付けていく授業づくり」と設定した。

## 研究の内容

1 秦野市立鶴巻小学校  
研究分野(社会)

## 1 「地球儀の活用」の有用性

今回の学習指導要領の社会科改訂においては、各学年の段階に応じて、地図や地球儀、統計、年表などの各種の基礎的資料を効果的に活用するという点が重視されることになった。そして、第5学年及び第6学年の能力に関する目標には、新たに「地球儀を効果的に活用し」という文言が加わった。

地球儀の活用は、次の点において、広い視野に立ち、基礎的・基本的な知識や技能を身に付けていくことに有用であると考えた。

- ①宮地(2007)が、「社会科で扱う地図の持つ方位や距離、面積といった歪みの限界を補ったり地球本来の球体という形状が大きな意味を持ったりする学習内容には、地球儀は不可欠である。」と述べているように地球全体のイメージを把握しやすいこと。
- ②基礎的資料の一つである地球儀を活用することは、他の資料と比べて、「地球が丸いこと」「地球に季節や時差があること」「世界は広い(狭い)という規模や距離の感覚を持つこと」「緯度と経度が分かること」「日本と世界の国々の位置関係」などの学習に効果があり、世界から日本をとらえるという視点や広く世界を見るという視点を養うことに有効であると考えられること。
- ③寺本(2009)が、「5年生の国土学習に『世界の主な大陸と海洋、主な国の名称と位置』が新たに入ってきたが、指で大陸の輪郭をなぞる指導こそ、効果抜群である。」と述べているように、地球儀を触る、手に取る、回すという活動ができ、地理的技能の習得に相当であること。
- ④吉田(2004)が、「日本では第5学年の教科書に地球儀の活用が示されるものの、突然付け足したような印象が否めない。学年の発達段階を追って、系統的に扱った方が、児童にとって無理がない。」と述べているように、学習の系統性を考えたとき、小学校段階での活用が大切であること。

以上のことから、地球儀の活用に着目しその有用性を検証したいと考え、サブテーマを「小学校社会科における地球儀の活用を通して」と設定し、地球儀の活用を効果的に取り入れた授業づくりについて追究した。

## 2 研究の仮説

本研究では、「はじめに」で述べた「広い視野」に立つことを、社会とのかかわりを意識して物事を考えていくことととらえた。なぜなら、児童が、自分と社会との結び付きに気づき理解していくことは、国土に対する理解を深め、国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識・技能を身に付けていく上での大切な視点となるからである。地球儀の活用は、前述1の「地球儀の活用の有用性」①と②の点から、「広い視野に立つ」ために有効だと考えた。

また、各種の基礎的資料を効果的に活用していくためには、その資料の有用性や使い方を実感して、繰り返し行うことが必要である。地球儀の活用も同様で、単元目標に基づき、学習展開において地球儀の活用の場面を効果的に取り入れて、繰り返し扱っていくことが、基礎的・基本的な知識や技能を身に付けていくために必要である。こうした地球儀の活用は、前述1の「地球儀の活用の有用性」③と④の点から、「基本的な知識や技能を身に付けていく」ために有効だと考えた。

以上のような理由から、次の研究仮説を立てた。

地球儀の活用を効果的に取り入れた授業を行うことによって、児童は、広い視野に立ち、基礎的・基本的な知識や技能を身に付けていくことができるであろう。

## 3 「地球儀の活用」の年間カリキュラム作成

地球儀の活用を図るためには、年間カリキュラムに地球儀の活用を意図的・効果的に組み込むことが必要であると考えた。なぜなら、田部（2008）が「小学校においては、大陸、地球の形、緯度経度といった世界を大観する学習が不足している。世界に関する学習が不足しており、日本との関連だけで世界を把握しており、自然地理的な学習内容を含む理科との不整合も生じている。」と指摘するように、地球儀の活用について具体的なカリキュラム化が不十分という現状があり、このことが、地球儀の活用につながらない要因であると考えたからである。

そこで、地球儀の活用を意図的・効果的に組み込んだ年間カリキュラムを作成し、それに基づいた授業づくりを行っていくこととした。

年間カリキュラム(第1表)は、次の3点を考慮して作成した。

○「単元」「学習内容」の項目は、新学習指導要領の内容をもとに作成し、配列した。「地球儀の活用の方法」は、その学習内容に応じて、地球儀の活用がどのよ

うに効果的であるかを考え、その具体的な活用方法を示した。

○「地球儀の活用のスキル」の項目は、児童が地球儀を自由に活用するために、身に付けさせたい技能を表している。そのうち、「地球儀の活用の方法」を効果的に実施していくために、特に大切な技能を○で示した。この項目は、帝国書院「年間指導計画案」を参考に作成した。

○「地球儀の活用を通して身に付く『広い視野に立つ』意欲や態度」の項目は、その単元の中で、地球儀の活用によって身に付くと考えられる「社会とのかかわりを意識して物事を考える」意欲や態度を示した。

また、6年の年間カリキュラムは、宮地(2007)の『シルクロード』『少年使節団』『黒船来航』など地球の裏側から、または大海原の向こう側からやってくる距離感を地球儀を使って感じ取らせたいものである。」にあるように、地球儀の活用が、日本の地理的条件や歴史的背景の理解につながることを考慮して作成した。

なお、地球儀の活用は、世界の漁場を調べる際に、まず地図帳を用いて海洋や漁場を探し、その場所を地球儀で確認するなど、地図帳と併用することを意図している。その作業には、同じ場所を2つの資料で見ても、表記の違いを比較するという学習が含まれ、資料活用能力の向上につながると考えたからである。

## 4 検証授業

### (1) 検証授業の概要

作成した年間カリキュラムに基づき、以下のように検証授業を行った。

○平成21年10月15日(木)～26日(月)5時間  
○秦野市立鶴巻小学校 5年4組 35名  
○単元:「日本の貿易」  
○単元目標:貿易による世界各国との結び付きについて調べ、その特色や課題をとらえ、国際協調の視点に立って、自分の考えを持つことができる。

単元の目標に迫るためには、世界情勢や国際関係に目を向けることが大切であると考えた。この学習に効果的な手立ての一つが、地球儀の活用である。地球儀の活用を通して、貿易相手国との距離や貿易品の輸送手段を実感することにより、国際状況や貿易相手国の様子に目を向けることができると考え、指導計画を立てた(第2表)。

指導計画には、オリエンテーションとスキルゲームを取り入れ、学習展開における地球儀の活用が効果的に行われるようにした。基礎的・基本的な知識や技能身に付けていくためには、地球儀の活用の有用性を児童が実感し、繰り返し活用していくことが必要であると考えたからである。

さらに、検証授業ではワークシートを活用した。このワークシートは、基礎的・基本的な知識や技能を身

第1表 「地球儀の活用」の年間カリキュラム (第5・6学年)

学年	単 元	学 習 内 容	地球儀の活用の方法	地球儀の活用スキル							地球儀の活用を通して身に付く「広い視野に立つ」意欲や態度					
				地名	方位	位置 緯度	位置 経度	距離	面積	時差		標高				
第5学年	地球儀の活用のオリエンテーション		地球儀の見方、使い方	国調べやランキングを調べる。 世界地図との比較をする。 地球儀ソフトを活用する。 紙テープで位置や距離を調べる。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	地球が丸く、世界の中に日本があることを意識すること		
	国土の自然の様子や環境	世界の主な大陸と海洋	六大陸や三大洋	陸半球と海半球を見比べる。	○					○	○			日本の地理的位置を把握し、他国の様子を調べようとするなど、世界に関心を持つことと世界の国の様子から日本の様子を見直すこと		
		主な国の名称と位置	ユーラシア大陸やその周りに10か国程度、その他の大陸やその周りに2か国程度	国名や国の形、位置、日本からの距離、時差を調べる。	○	○	○	○	○	○	○					
		世界の主な国の正式名称と国旗														
		日本の位置と領土	北海道、本州、四国、九州、沖縄島、北方領土、日本列島の周りの海	日本を地球儀の中心に置き、日本周辺の国や海の様子を調べる。	○	○	○			○	○					
		国土の地形や気候の概要	日本の主な山地や山脈、平野、川などの地形、地域による気温と降水量	緯度をたどり、他国との気候や標高を比べる。			○									
		自然条件から見て特色ある地域の人の生活	野菜や果物、花卉の栽培、酪農、観光などの産業	緯度・経度や標高などの自然条件を調べる。			○	○								
		公害から国民の健康や生活環境を守ることの大切さ	大気汚染、水質汚濁などの公害と国民の健康や生活環境とのかわり	世界の自然環境を調べ、日本と比べる。							○	○				
	農業や水産業	国土の保全などのための森林資源の働き及び自然災害の防止	森林資源の働きと国民生活とのかわりおよび自然災害の防止と国民生活とのかわり	世界の森林の様子を調べ、日本と比べる。								○	○			
		様々な食料生産が国民の食生活を支えていること	主食である米、野菜、果物、畜産物、水産物などを生産する農業や水産業													
		食料の中には外国から輸入しているものがあること	主な食料の自給率や主な輸入先	貿易相手国と日本の位置関係、交通経路や所要時間を調べる。	○	○	○	○						外国からの食料輸入を通して日本の食料生産を考え、他国とより良い関係を築いていく大切さを意識すること		
		日本の主な食料生産の分布や土地利用の特色など	日本における主な農産物や畜産物の生産量や主な産地、土地利用の特色、及び主な水産物の漁獲量や主な漁港、漁場などの分布	世界の海洋や漁場を調べる。							○	○				
		食料生産に従事している人々の工夫努力	稲作、野菜、果物、畜産物などを生産する農業や水産業の盛んな地域													
		生産地と消費者を結ぶ運輸などの働き	運輸の働きや情報収集	日本の海上交通路を確認し、日本周辺の国や海の様子を調べる。	○	○	○	○								
		工業生産	様々な工業製品が国民生活を支えていること	工業製品と国民生活のかわり												
	日本の工業生産や工業地域の分布		日本の主な工業生産の種類、工業地帯や主な工業地域の分布	緯度・経度や標高などの自然条件を調べる。			○	○						海外に進出する企業や原料を輸入することを知り、工業生産のより良い未来を思い描くこと		
	工業生産に従事している人々の工夫や努力		工業の盛んな地域の事例													
	工業生産を支える貿易や運輸などの働き		原材料の確保や製品の販売などに見られる貿易や運輸、情報の働き	貿易相手国と日本の位置関係、交通経路や所要時間を調べる。	○	○	○	○								
	情報展覧化の	放送、新聞などの産業と国民生活とのかわり	情報化の進展と様々な情報手段の普及	ニュースの発生地や発信地を知り、時差や日本との距離を調べる。	○				○					ニュースの発生地や発信地を調べ、世界との結び付きを意識すること		
		情報化した社会の様子と国民生活とのかわり	情報ネットワークの働きや情報のモラル													
第6学年	地球儀の活用のオリエンテーション		地球儀の見方、使い方	国調べやランキング調べを行う。 世界地図との比較をする。 地球儀ソフトを活用する。 紙テープで位置や距離を調べる。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	地球が丸く、世界の中に日本があることを意識すること		
	日本の歴史	縄文・弥生・古墳時代	狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷による国土統一 卑弥呼	古代文明の位置やシルクロードを調べる。	○					○	○			その時代の日本との政治や文化の違いを比較し、日本の地理的条件を再認識すること		
		飛鳥・奈良・平安時代	大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営、貴族の生活、天皇中心の政治や日本風の文化 聖徳太子、小野妹子、中大兄皇子、中臣鎌足、聖武天皇、行基、鑑真、藤原道長、紫式部、清少納言	遣隋使、遣唐使の渡航経路を調べる。	○					○	○					
		鎌倉時代	源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦い、武士による政治 平清盛、源頼朝、源義経、北条時宗	元寇の経路を調べる。	○						○	○				
		室町時代	室町文化 足利義満、足利義政、雪舟	日明貿易の渡航経路を調べる。	○						○	○				
		安土桃山・江戸時代	キリスト教伝来、織田・豊臣の天下統一、江戸の幕府の始まり、参勤交代、鎖国など戦国の世の統一、身分制度の確立と武士による政治の安定 ザビエル、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康、徳川家光	少年遣欧使節団、ザビエル、マゼラン、コロンブス、南蛮貿易の渡航経路を調べる。	○	○						○	○			
		元禄文化	歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学、町人の文化 近松門左衛門、歌川(安藤)広重、本居宣長、杉田玄白、伊能忠敬	鎖国下の外国との交流経路を調べる。	○					○	○					
		明治・大正時代	黒船の来航、明治維新、文明開化、廃藩置県や西民平等、日本の近代化 ペリー、勝海舟、西郷隆盛、大久保利通、木戸孝允、明治天皇	ペリー来航の経路や開国した相手国を調べる。	○							○	○			
		昭和から平成へ		大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展、国力充実と国際的地位の向上 福沢諭吉、大隈重信、板垣退助、伊藤博文、陸奥宗光、東郷平八郎、小村寿太郎、野口英世	条約改正をした国々を調べる。	○						○	○			
				日華事変、第二次世界大戦、日本国憲法の制定、オリンピックの開催、戦後日本の民主的な国家として出発、国民生活の向上と国際社会での役割	日本との戦争に関わった国や地域を調べる。	○							○		○	
		日本の政治	地方公共団体や国の政治の働き	国民の祝日、議会政治や選挙の意味、国会と内閣と裁判所の三権相互の関連、国民の司法参加、租税の役割	議院内閣制や大統領制を行っている国を探る。	○										日本の世界における立場を意識すること
	日本国憲法		日本国憲法が、国家の理想、天皇の地位、国民としての権利及び義務、国家や国民生活の基本	特色ある憲法を持つ国を探る。	○											
	日本世界の役割	日本とつながりが深い国	異なる文化や習慣の理解、国旗と国家の意義	日本とかわりのある国を調べたり、関連する項目について日本との違いや行き方などを調べたりする。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	世界に目を向け、これからの日本の課題をどう考え、解決していく意識を持つこと	
		日本の国際交流や国際協力	世界平和の大切さと日本の世界における役割、国際連合の働き、ユニセフやユネスコ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		

第2表 「日本の貿易」指導計画

時	学習内容	本時目標	学習活動	の地球儀
1・2	地球儀の使い方	地球儀の活用を通して、世界の様子やできごとについて関心を持ち、意欲的に調べることができる。	地球儀の活用のオリエンテーション	○
3	世界に広がる自動車工場	日本の自動車の輸出や外国での生産の様子を調べ、貿易による世界各国との結び付きや協力について考えることができる。	1 スキルゲームを行う。	○
			2 日本の自動車輸出相手国と海外生産について調べる。	○
			3 これからの日本の自動車生産について話し合う。	
4	日本の貿易の特色	グラフや地図などの資料を活用して、日本の輸入品や輸出品の特色、貿易相手先とその特色を調べてとらえることができる。	1 スキルゲームを行う。	○
			2 自動車の原料や原料の輸入相手国について調べる。	○
			3 日本の貿易の特色についてまとめる。	
5	これからの貿易	日本の貿易の特色や課題をまとめることを通して、これからの貿易について自分の考えを持つことができる。	1 スキルゲームを行う。	○
			2 原油の輸入航路と距離について調べる。	○
			3 各国の経済事情について話し合う。	
			4 日本の貿易の課題について話し合う。	

に付けていくために、地球儀の活用の項目を入れ、1時間単位で振り返りや復習に使うことを考慮して作成し、活用を図るものである。また、児童の関心・意欲・態度を見取ったり、知識や技能を身に付けていくことを見取ったりする資料としても有効なものと考えた。

(2)「地球儀の活用」の具体的な指導

ア オリエンテーション

地球儀に親しみ、地球儀の活用の有用性を実感させ、地球儀の活用の意欲を高めるために、単元の導入時にオリエンテーションを実施した。オリエンテーションは、次の手順で行った。

- ①様々な地球儀を知る。
- ②地球儀で大陸・海洋・国などを調べる。
- ③世界地図と比較し、地球儀の良さを考える。
- ④日本の位置を予想する。
- ⑤パソコンを用いてダウンロードしたバーチャル地球儀ソフト（以下地球儀ソフト）を活用し、経度と緯度を調べる。
- ⑥紙テープを使い、日本からみた海外の都市の方位や日本との距離を調べる。
- ⑦懐中電灯と地球儀を用いて、昼と夜の違いや時差について調べる。

様々な地球儀（ボール型のもの、自動回転するもの、音声情報を伝達するもの、電磁力で浮くものなど）を紹介したり、実際に触って回して調べたりする時間を十分に確保した。

また、地球儀の活用の補助資料として、地球儀ソフトを活用することが、世界の様子に関心を持ち、自分の課題を見つけていく際に有効であると考えた。地球儀ソフトの立体的映像と、グリッドで示される緯線と経線が、緯度や経度の学習に適しているからである。地球儀ソフトを活用した学習は、次の手順で行った。

- ①「グリッドなし」の地球を見る。
- ②地球の画像を大きくしたり小さくしたりする。
- ③地球儀ソフトで示した場所を地球儀で探す。
- ④「大気圏あり」を示し、気付いたことを話し合う。
- ⑤「天気」を示し、気付いたことを話し合う。
- ⑥自分たちの小学校を探す。
- ⑦小学校から最寄り駅までのルートを探す。
- ⑧地球の画像を回転させ、自転の様子を確認する。
- ⑨「グリッド」を示し、緯線と経線を確認する。
- ⑩「太陽あり」を示し、昼と夜を確認する。
- ⑪各自で、行ってみたい国や名前を知っている国の位置を探すなどの調べ学習を行う。
- ⑫懐中電灯と地球儀で、昼と夜の違いを調べる。
- ⑬日本と外国との時差について調べる。



第1図 オリエンテーション

第1図は、地球儀ソフトの画面で昼と夜を確認した後、懐中電灯を太陽に見立てて地球儀を照らし、昼と夜の違いを調べている様子である。

イ スキルゲーム

オリエンテーションで学習したスキルを定着させるために、短時間で学習できるスキルゲームを考案した。スキルゲームにより、地球儀の活用の技能が高まり、地球儀を扱うことや国の名前や位置を把握する学習に対して意欲的になると考えた。

スキルゲームは、繰り返し行う、ゲーム感覚で覚えやすい、グループ活動ができる、自分たちで工夫できる、という点を考慮した。授業開始後の2分間に、4人1組を基本として次のように行った。

- ①キャッチゲーム：ビニール製のボール型地球儀を投げて、右手の親指が指している箇所が陸か海かを調べる。何回か行い、実際の地球上の割合と比較する。
- ②国探しゲーム：一人が国名を言い、一人が地球儀で探し、別の二人が地図帳で探す。
- ③地球儀ピタッとクイズ：地球儀を回転させ、一人が眼をつぶり指さした国を言い、三人が地図帳で探す。
- ④テレチャンゲーム：テレビ欄に載っている国を地球儀で探す。チャンネル別や時間帯ごとにグルー



第2図 スキルゲーム

プ内で分担して調べる。

- ⑤古今東西ゲーム：手拍子をしながら国名を順番に言う。地球儀で位置を確認する。
- ⑥バトンゲーム：地球儀をバトンに見立て、国名を言い、一人が地球儀で探す。制限時間内に地球儀を次の人に渡し、何回渡せるかを競う。

第2図は、テレチャングームをしている児童の様子である。役割分担をして国を探している。

### ウ 学習展開における「地球儀の活用」

第5時では、距離や経路を実感しながら学習課題に取り組むことが必要であると考え、紙テープを使って日本と貿易相手国の輸送経路を調べる、という地球儀の活用場面を設定した。

地図帳にある原油輸入経路を見ながら、第3図のように紙テープを使ってその距離を調べた。そして、日本とサウジアラビアのガソリン価格の資料などから相互の国内事情について話し合い、これからの日本の貿易について自分の考えをまとめた。

地球儀を使って方位や距離を求めるといふ作業的学習は、紙テープを直角につなぎ、片方の紙テープを地球儀の経度に合わせて方位を求めたり、紙テープに等分の目盛りをつけて距離を求めたりするもので、小学校・中学校・高等学校の教科書や地図帳でも同様の方法が示されている。

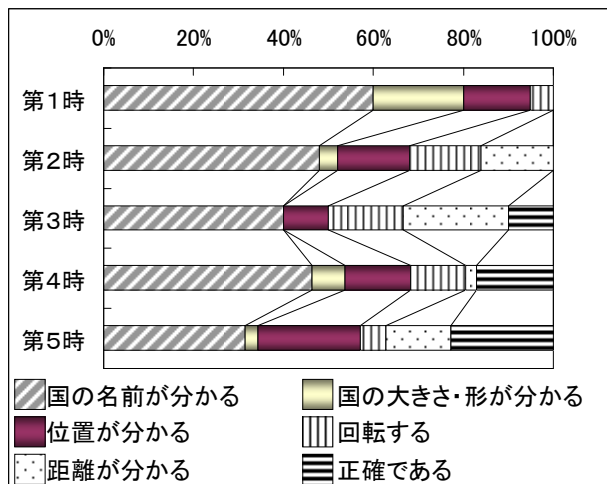


第3図 輸入経路を調べる

## 5 検証授業の考察

### (1)「地球儀の活用」の有用性について

オリエンテーションとスキルゲームにより、児童は、目的に応じた地球儀の活用ができるようになった。



第4図 児童が実感した地球儀の長所

第4図は、「地球儀を使って学習すると、どのような良いところがありますか。」という問いに対する児童のワークシートの記述内容を図にまとめたものである。

記述内容を整理し、六つの項目に分けた延べ人数を割合で示した。「地球儀は正確である。」という記述内容が第3時以降に見られ、その割合が増えたことは、学習展開における地球儀の活用を通して、児童が地球儀の活用の有用性を実感できたことを示している。

以下は、児童が、単元終了後にワークシートに記述した地球儀の活用についての感想である。なお、記述は、一部ひらがなを漢字に直した。(p.18も同様)

- A児：一番難しかったのは距離を測ることだったけれど、だんだん慣れて少しできるようになりました。また距離を測るときは使いたいです。世界地図と比べて、地球儀は大きさや形も正確だし太陽との関係も光を当てて確認できました。時差の理由も分かったので地球儀は便利だと思いました。
- B児：地球儀は、全部の国の大きさや形が同じけれど地図帳は、大きさや形が違うから私は地球儀の方が便利だと思いました。地球儀は回さないと国が調べられないけれど、地図帳はそのまま調べられるので地図帳も良いと思いました。
- C児：地球儀を使うと、正確な場所が分かるので良いと思いました。だけど、一度地図帳で場所を確認してからでないと探せなかったです。

A児の記述からは、地球儀の活用を繰り返すことによって、地球儀の活用の技能を高め、地球儀の有用性を実感していったことが分かる。

地球儀を使うことに慣れていない段階では、その良さに気づきながらも、地図帳の方が使いやすいと感じている児童が多かった。しかし、授業を重ねるごとに、B児のように、地球儀の長所や地図帳の長所についても気付くようになった児童が増えていった。これは、地球儀の活用は、地図帳との併用が有効であることを示していると考えられる。

C児は、2つの資料を併用することによってかえって複雑な作業になっていると感じている。本研究における年間カリキュラムは、地球儀と地図帳との併用を意図して作成したものであるが、学習課題に応じて、地図帳と地球儀のそれぞれの特色を生かして使い分けることも必要であるという課題が明らかになった。

また、児童の感想の中に、「地球儀を使用するとき、4人の場合2人しか見ることができず少しやりにくいと思った。」「きのうのスキルゲームは時間が少なかった。」という記述があった。学習課題に応じて、同一の地球儀を必要数用意したり、測り方や誤差の許容範囲などを話し合う場面の設定や活動時間を確保したりする必要があることが確認できた。

### (2) 広い視野に立ち、基礎的・基本的な知識や技能を身に付けていくことについて

地球儀の有用性を実感し、学習展開の中で繰り返し活用していくことが、基礎的・基本的な知識や技能を身に付けていくことにつながった。

第5時の「これからの日本の貿易についての自分の考えをまとめましょう。」という問いに対する児童のワークシートの記述内容を整理すると、児童の63%が「輸出入の制限や貿易摩擦」について記述し、児童の51%が「相手国との協調性」について記述していた。両方の内容に触れていない児童は、全体の9%であった。このことは、多くの児童が、単元目標に迫る考えを持つようになったことを示している。

以下は、児童が、授業を通して分かったことや考えたことをワークシートに記述したものである。

D児：初めて地球儀をじっくり使ったので、良い経験になりました。たくさん地球儀を使ったので、初めは国を探すには時間がかかったけれど、慣れてきて今では少しだけ早く探せるようになりました。

E児：初めて授業を受けるとき、国のことについて知らないけれど平気かなと思った。私は、毎時間スキルゲームをしてきて、今まで知らなかった国名も覚えられたし、国の位置も少しは覚えることができ良い勉強になりました。

F児：日本は加工貿易を中心として貿易を行っているので、これからもできるだけいろいろな国から原料を買えば、日本の自動車などを輸出しても、相手国もおこらないし、輸出量を制限しても良いと思う。

G児：貿易相手国の輸入する金額を上げたりせず、輸出し過ぎて相手の国をおこらせたりせずに貿易ができたらいいなあと思いました。どんな物でも誰かが一生懸命作っている物だから、輸出し過ぎず輸入もし過ぎないようにするのが一番良いと思う。国もお互い仲良くするのが一番良いと思う。

D児やE児の記述から、オリエンテーションやスキルゲームなどを含め、地球儀の活用の効果的な場面を設定し、繰り返すことが、地球儀の見方や使い方を身に付けていくことに効果的であり、基礎的・基本的な知識や技能を身に付けていくことにつながっていることが読み取れる。

そして、F児やG児の記述からは、日本の貿易の特色や課題について理解し、これからの日本の貿易について、国際協調の視点に立ち、自分の考えをまとめることができたことが読み取れる。これは、単元目標に迫るもので、単元を通した地球儀の活用によって、社会的な見方や考え方が養われ、日本と世界各国とのつながりを意識するようになったことがその一因であると考えた。このことは、社会とのかかわりを意識して物事を考えていく意欲や態度ととらえることができ、地球儀の活用が広い視野に立つことにつながったと言える。

以上のように、オリエンテーションやスキルゲーム、学習展開における地球儀の活用が、広い視野に立ち、基礎的・基本的な知識や技能を身に付けていくことに

有効であったと考えられる。

## 6 研究のまとめと課題

本研究では、作成した年間カリキュラムに基づいて、一つの単元での検証を行った。地球儀の活用を効果的に取り入れた授業づくりによって、学習意欲が高まり、身に付けた知識や技能を活用していく態度が見られるようになった。

平成23年度に全面実施される新教育課程においては、小学校社会科第5・6学年の標準授業時数が増える。その中で、社会科学習の基礎的・基本的な知識・技能である地球儀の活用を図りつつ、小学校生活科や小学校社会科第3・4学年の学習、及び中学校の教育課程とのつながりを意識した年間カリキュラムの構成や内容の重点化を考慮することが必要である。

### おわりに

「地球儀を使って授業を受けた記憶がない。」とか「地球儀を活用した授業をあまりしていない。」という声を聞く。今回の研究を契機に、実践を積み重ね、地球儀の活用を含め、広い視野に立ち、基礎的・基本的な知識や技能を身に付けていく授業づくりを進めていきたい。

### 引用文献

- 文部科学省 2008 『学習指導要領解説 社会編』  
中央教育審議会 2008 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」  
国立教育政策研究所 2008 「特定の課題に関する調査（社会）調査結果（小学校・中学校）」  
田部俊充 2008 「ワークショップ 幼稚園における地図・地球儀の活用」『新地理 56 巻 3 号』 pp. 56-57  
寺本潔 2009 「新学習指導要領が求める地図帳の使い方③」『こどもと地図 2009 年 1 月号』帝国書院 p. 1  
宮地夏子 2007 「小学校社会科における地図・地球儀指導の変遷と課題」『探究 18 号』 p. 8  
宮地夏子 2007 「チャレンジ実践 小学生に教える地球儀」『プロが教えるオモシロ地球儀』寺本潔編著 明治図書 p. 131  
吉田和義 2004 「地球儀の活用技能をつけるー地球儀で世界へ」『地図学習を面白くする授業アイデア』 明治図書 p. 86

### 参考文献

- 帝国書院 2008 「楽しく学ぶ小学生の地図帳 4・5・6 年 初訂版 移行措置期間における年間指導計画案」  
渡邊伸樹 2000 「小学校第5学年における地球儀を活用した学習」『新地理 48 巻 3 号』